第６学年　道徳科学習指導案

**１　主題名**　　広い心で（Ｂ　相互理解，寛容）

**２　教　材**　　「銀のしょく台」　出典「６年生の道徳」　文渓堂

**３　主題設定の理由**

**（１）子どもの実態について**

　４月、「１人１人が輝き、固い絆を結んでいきたい」と願った級訓「輝け！３７のダイヤモンド」を掲げ、様々な場面で個々を認め合いながら、仲間づくりをしてきた。３学期になり、卒業までの登校日があとわずかであることを知り、４組の仲間と過ごせる残りの日々を大切にしていきたいと感じている子どもが多い。

一方で、友達のちょっとした言動を気にして悩んだり、許せなかったりして、交友関係がぎくしゃくすることもある。学級の中には、その子と一緒にいることが多いにもかかわらず、何かと気に入らないことが多くて関係が気まずくなり、よくよく話を聞くと、４年生のときにあった、その子の許せなかったことをずっと引きずっているという子どももいる。

今後も、多くの人と出会い、様々な人間関係を結んでいく子どもらが、本時の授業を通して、相手の立場を理解し、寛容な心で人と接することができるようになることを願う。

**（２）道徳的価値について**

意見や考え、立場などが異なる様々な人たちと、共によりよく生き、豊かな人間関係を築いていくためには、互いに認め合い理解し合いながら高め合う関係を築くことは不可欠である。自分の意見や考えを主張することと同様、時には、自分と異なる意見や立場も広い心で受けとめて、相手への理解を深めることで、自らを高めていくことができる。また、自分自身にも至らなさがあることを自覚し、自分を謙虚に顧みて、他人の過ちを許す態度や相手から学ぶような広い心をもつことも、広く深い人とのかかわりを築いていく上では欠かせない。謙虚な心で、自分と異なる意見や立場を理解し、受けとめることや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人たちと共によりよく生き、創造的で建設的な社会を作っていくために必要な資質・能力である。

**（３）教材について**

本主題で扱う「銀のしょく台」は、ビクトル・ユゴー作、「ああ無情」を基にして作られた教材である。４５分間という限られた時間の中で、「どんな立場の人も広い心で受け入れる」という価値に、より迫ることができるようにするため、「７人の子どもを養うためにできる仕事はなんでもやったのに生活は貧しく、一切れのパンを盗んだだけで」という教材前半の部分は削除した。

司教は、１９年も服役していたジャン・バルジャンを温かく迎え、食事を与え、一晩泊めた。にもかかわらず、ジャンは司教の家にあった銀の食器を盗み逃げてしまう。次の日の朝、警官に捉えられたジャンが再び司教の家に現れるが、司教は「その食器はあげたもの」「この銀のしょく台もあげたものだ。持っていきなさい。」と、ジャンを責めることなく、しょく台まで差し出す。子どもたちの生活とは離れた場面設定、状況ではあるが、登場人物の状況や心情は想像しやすく、「広い心で相手を受け入れる」ことについて考え、話し合う教材としてはふさわしいと考える。

**（４）豊かな心とたくましさを育むための手だて**

**①豊かな心を育むために**

・子どもの問題意識を大切にした発問構成

教材提示後は、「みんなで考えたいこと」「気になったこと」を問う。子どもの意見は、「司教が、銀の食器はあげたものだと言ったこと」「さらに銀のしょく台を差し出したこと」に集まると予想される。その意見から、本時の学習課題を設定する。そうすることで、子どもの問題意識が強くなると考える。発問構成は、本時のねらいである「寛容」により迫っていけるように、子どもの意識の流れを大切にしながら、問い返しや切り返しなどをしていきたい。

**②たくましい心を育てるために**

・事前アンケートをもとにした、その後の変容

　授業の前に、「心が狭いと思う言動」についてアンケート調査を行う。その結果をもとに、本時でねらう道徳的価値に対する個々の考え方の変化や深まりを把握する。授業後半のノートへの記述や授業後の人とのかかわりの様子などから、できるようになったことを認め、声かけや朱書きで伸ばしていきたい。

**４　本時の目標**

①登場人物の行動や心情を考えることにより、寛容な心をもつことの大切さに気づくことができるようにする。

②広い心で相手を受け入れ、適切に対処しようとする態度を育む。

**５　本時の展開**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 児童の活動 | 教師の活動 |
| きづく  （3）  つかむ  (7)  ねる  (15)  ふかめる  (7)  みつめる  (7)  あたためる  (6) | １　心が狭いなあと思うことはありますか。  ・弟にお菓子を食べられて、真剣に怒ってしまった。  ・遊んでいたら、どこかからボールが跳んできて当たって、いらっとした。  ・友達に教科書を見せてと言われて、嫌だなあと思った。    「広い心」について考えよう。  ２　みんなで考えていきたいことは何ですか。  ・なぜ司教は捕まったジャンに「銀の食器をあげた」と言ったのか。  ・なぜ司教は銀のしょく台もジャンにあげたのか。  ・銀の食器を盗んで捕まったのに、「あげたもの」と言われたときのジャンの気持ち。  ３　司教はなぜ、「銀の食器をあげた」と言ったのだろう。  ［司教の思い］  ・貧しい人に与えた方がよい。  ・売って生活費として役に立ててもらいたい。  ・刑務所から出てきたばかりなのに、また捕まったらかわいそう。  ・盗まれたことは忘れよう。  ［さらに銀のしょく台をあげたときの司教の思い］  ・自分たちにはぜいたくな物だ。  ・反省して、出直してほしい。  ・二度と同じことをしないでほしい。  ・新しい生活を始めるためのプレゼント。  ［ジャンの思い］  ・また捕まると思っていたのに助かった。  ・こんな人がいるなんて信じられない。  ・親切にしてもらったのに盗んで申し訳ない。  ・二度と盗みはせずに、出直そう。  ４　司教から学んだことはどんなことですか。  ・自分が苦しくても相手に優しい。  ・分け隔てなく人に接している。  ・人を責めない。  ５　「広い心」をもつとどうなるでしょう。  ・優しい人になれる。  ・怒れたり、いらいらしたりすることが減りそう。  ・相手のことを考えられるようになる。  ・広い心で人に接すると、相手も変わる。  ・もめごとがなくなる。  ６　本時の振り返りをしよう。  ・どうして司教のように、相手のことを考えて接することができる人になりたい。  ・みんなが広い心になれば、困る人や嫌な思いをする人がいなくなると思う。 | ・事前にアンケートを取り、その結果を発表し、道徳的価値への方向付けをする。  ・本時の終末でふり返ることができるように、個々のアンケートの回答を配付しておく。  ・学習テーマを知らせるとともに、教材を範読する。  ・意見が出にくいときは、「気になったことはどこですか」と補助発問をする。  ・学習課題を共有するために，子どもの意見が重なっている場面から決定する。（手だて①）  ・自分の考えを整理することができるように、発問についての自分の考えをノートに書く時間を設ける。  ・話し合いを深めるために、机間指導しながら、子どもの考えを把握する。  ・寛容な心に迫るために、「さらに銀のしょく台をあげたときの司教の思い」を考えるように促す。  ・多面的に考えることができるように、ジャンの思いも想像するように促す。  ・子どもの意見で出た、司教の思いの中で、心が広いと思うものはどれかと問い返す。  ・司教の行動や思いを、自分自身の生活に生かすことができるように、「司教から学んだことはどんなことか」と発問する。  ・事前アンケートで書いたことを読み返し、広い心がもてたらどう変わるかを考えるように促す。手だて②  ・改めた言動を考えることができた子どもを称賛する。  ・授業前の子どもの考えと、授業後の考えの変容を比較し、「寛容」についての価値意識が高まったかどうかを把握する。手だて② |

**６　評　価**

①登場人物の思いを想像したり、友達の考えを聞いたりすることを通して，相手を受け入れる広い心の大切さに気づくことができたか。　　（活動３、４の記述、発言から）

②相手の立場や気持ちを考え、広い心をもって生活していこうとする気持ちを高めることができたか。　　　　（活動４、５、６の発言、ノートの記述、その後の生活から）

**７　板書計画**

